

特集 01 2030年に向けて乗り越えるべき壁

大学経営 5つのテーマ

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン答申」が示されたのが、2018年11月。

そしてその後、コロナ禍に見舞われ、

リアルなキャンパスを起点とした人々の交流が妨げられる一方で、

教育のデジタルイノベーションは猛スピードで進化中だ。

そんな想定外の変化・進化がありつつも、

答申の冒頭に示された将来への世界観は揺らぐものではなく、

むしろ、新たな技術や柔軟な発想を以って、

よりスピーディに具体化の筋道への意思決定を促すもののように、

今改めて、読み取れる。

まさに、遠い将来への絵を描くことは、こんなポストコロナの社会だからこそ不可欠なのだろう。

今回は、2023年の年頭に当たり、

「2030年」という地点の高等教育を取り巻く状況の解像度を上げてみたいと考えた。

遠い将来から、バックキャストで具体的戦略を構想する際の

マイルストーンとなるのではないか、という思いである。

特に今回は、戦略の意思決定のスピードを高め、

独自の価値を創出するためのテーマとして、

次の5つを立て、

各テーマにおいてアカデミズムの内外の知見を持つ有識者の方々に

対談頂いた。

また、各テーマにおいて未来を見据えた取り組みを行う大学に、

その挑戦を伺った。

撮影/小山昭人

Theme 01 経営戦略の実質化・経営意思決定のスピード化



デロイトトーマツ グループ パートナー
安井 望氏



東京大学 教育学研究科 教授
両角 亜希子氏

< CASE > 芝浦工業大学

Theme 02 職員の戦力化



慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員
高橋俊介氏



情報・システム研究機構 監事
学校法人東京家政学院 理事長
吉武博通氏

< CASE > 桜美林大学大学院国際学術研究科
大学アドミニストレーション
実践研究学位プログラム

Theme 03 これからのキャンパス体験—メタバースの可能性



iU (情報経営イノベーション専門職大学) 学長
中村 伊知哉氏



東京大学 総長特任補佐・
先端科学技術研究センター 身体情報学分野 教授
稲見昌彦氏

< CASE > 久留米工業大学

Theme 04 デジタルによる学修成果の証明と大学の出口



京都大学 学術情報メディアセンター
連携研究部門 教授 (教育イノベーション分野)
飯吉 透氏



株式会社リアセック 取締役
松村直樹氏

< CASE > 法政大学

Theme 05 連携・横断・共創の必要性



慶應義塾大学医学部 教授
宮田裕章氏



株式会社フューチャーセッションズ 代表取締役社長
有福英幸氏

< CASE > 同志社大学 文化情報学部

編集長の視点